

令和2年度地域づくり団体活動支援事業実績(都道府県協議会)

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	石川地域づくり協会	①安藤 崇 ②尾野 寛明 ③土屋 望生 ④広石 拓司	①株式会社モンスーン企画 ②有限会社エコレッジ代表取締役 ③株式会社日添 ④株式会社エンパブリック代表取締役	いしかわ地域づくり塾	①令和2年10月3日(土) ②令和2年10月31日(土) ③令和2年12月19日(土) ④令和3年1月16日(土)
		事業内容		事業成果	
		<p>令和2年度のいしかわ地域づくり塾は、令和2年9月18日に自治体職員向け、9月19日に一般向けでそれぞれプレ講座を開講した。10月3日から令和3年2月27日までに本講座を開講し、受講生が自らの地域で今後取り組みたいことを「マイプラン」としてまとめ上げる「わがまちプランコース」を開催した。</p> <p>講座は前半にゲスト講師の講義、後半に年間受講者による演習(ゲスト講師もアドバイザーとして参加)で構成した。このうち、ゲスト講師の講義は年間受講者以外の聴講も可能とし、地域づくりの第一人者から直接知見を得て、意見交換できる機会をより多くの地域づくり関係者が得られるようにした。</p> <p>今回助成申請した講座における講義の概要は次のとおり。</p> <p>【10/3:安藤崇氏】 ○テーマ:集落の空き家をどうする? 不動産事業の観点から、空き家問題の解決と地域の活性化の事例を取り上げ、土地や建物を軸とした地域と個人の橋渡しの方法論について話をいただいた。</p> <p>【10/31:尾野寛明氏】 ○テーマ:普通の人が進める地域づくり 肩書がなく、何かをしたいと思っているが一步を踏み出せない「普通の人」が今後の地域づくりには重要であり、「普通の人」を前に進ませるには、ひたすら共感することや、企画書を作ってモヤモヤを言語化してもらうことが必要と話をいただいた。</p> <p>【12/29:土屋望生氏】 ○テーマ:超小規模地域での仕事づくり 超小規模地域において地域の人たちや地域の資源を活かした地域づくりのために、課題解決ではなく「自分のやりたいことをやっている人を増やす」こと、「今いる人がいかに幸せにできるか」ということを大切にしたい取り組みについて話をいただいた。</p> <p>【1/16:広石拓司氏】 ○テーマ:複雑な社会問題を解くために コロナ禍に限らず現在前提としている社会構造は変わらざることを前提にして活動を持続することや、現在の複雑な社会問題を複雑なままに受けとめることで他社と共に学ぶ、互いから学びあうことの話をしていただいた。</p>		<p>参加者アンケートでは、回答のあった方の大半から「満足した」「やや満足した」との回答があった。また個別コメントでは例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関わるハードルの低さを大切にしつつ、色々な人が挑戦できる「週末ヒーロー」を若者からも作り出していきたいと思えます。(10/31) ・夢を見ることと現実を見ることのバランスはすごく難しいけれど、自分のできる範囲から小さなことでも積み重ねれば夢が叶うんだと勇気をもらえました。(12/19) ・複数の気づきがあり、自分のビジョンの再確認と再考すべき可能性を感じた。しかし、もう少し突っ込んだ話がしたい。難しいとは思いますが、質疑応答やパーソナルな時間が欲しい。(1/16) <p>といった感想など、多くの参加者が講座で得た気づきを回答しており、参加者が地域づくりを進めていくにあたり、ゲスト講師の講義がプラスになったものと思われる。</p> <p>また、講義に加えて受講者との対話やプラン・コーディネート実習への指導も行っていただき、地域づくりの第一人者から直接指導を受けたことは、年間受講者のマイプラン作成や、コーディネート能力の向上の点でも刺激になった。最終的に年間受講者10名中9名が講座を修了する見込みである。</p>	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
2	愛媛県ふるさとづくりネットワーク推進会議	①谷本 貴之 ②辻本 京子 ③清家 裕二 ④三瀬 泰介	①愛媛大学社会共創学部産業マネジメント学科准教授 ②企業組合遊子川ザ・リコピンズ代表 ③企業組合こもねつと事務局長 ④株式会社いなほ農園代表取締役	第43回地域政策研究セミナー 『地域におけるブランド化戦略～「日本ワイン」を事例として』	令和2年11月27日(金)
		事業内容		事業成果	
		<p>愛媛県松山市内にあるビュアフル松山勤労会館で11月27日(金)に開催した「地域政策研究セミナー」は、愛媛県ふるさとづくりネットワーク推進会議で事務局を担当している(公財)えひめ地域政策研究センターが財団設立以来開催している「地域課題解決型のセミナー」で、今回43回目を迎えた。</p> <p>第1部の愛媛大学社会共創学部の谷本貴之准教授の講演では、地域ブランドの概念の他、近年注目されている「日本ワイン」の現状やブランド構築に向けた2つの会社の取り組み事例などをご紹介していただき、ブランドの構築に対する重要な着眼点などについてご教示いただいた。</p> <p>第2部のパネルディスカッションでは、「地域ブランドの確立を目指して」というテーマで、愛媛県内で地域ブランドの確立に向けて取り組まれている3つの団体の方々にご登壇いただくとともに、谷本氏にもコメント者としてご参加いただいた。</p>		<p>第1部では、ブランド・エクイティ(ブランドが持っている資産価値)の構成要素の他、地域ブランド構築に必要な視点として、①地域内外の人々に広く知られ、②品質が高いものとして認識され、③よいイメージとともに記憶され、④繰り返し購入したい・訪れたいなどの愛着を抱かれるという要素を持ってもらうことが理想であることをご教示いただいた。</p> <p>また、第2部の活動報告&パネルディスカッションでは、3団体の皆様にご登壇いただき、地域ブランドの確立を目指して実際に取り組まれている具体的な活動などを通じて、地域における雇用の創出や地域内での経済循環に寄与していることなどについて幅広く発表していただいた。</p> <p>今回のセミナーの成果として、地域ブランドの構築に向けた着眼点や、各地区の実情に合ったブランドの構築を目指すことが大切であることを改めて考える契機になったものと考えている。</p>	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
3	佐賀県地域づくりネットワーク協議会	吉松 育美	モデル・元ミスインターナショナル日本代表 IY GLOBAL,LLC代表	自発のさがづくりサミット	令和3年2月27日(土)
		事業内容		事業成果	
		<p>ミスインターナショナルで世界一となりハリウッドで活動をされていた講師であったが、コロナ禍の影響を受け、拠点を日本におき世界に目を向けた現在の活動(日本の魅力画像制作、海外メディアへのロケーションハンティングの誘致)を紹介していただいた。今回の「自発の地域づくり」に絡めて、「自発」とは自分で発信すること。ただし相手の目線にたって相手が必要とする情報の発信も必要。」とのキーワードをいただいた。さが地域づくり未来トークでは、さがんもん魅力活動発表団体(高校生・30代～40代の地域で魅力活動を行っている団体)とディスカッションを行い、実りあるコメントをいただいた。</p>		<p>これまで佐賀県地域づくりネットワーク協議会で開催の講演会は総会后に基調講演という流れであり、参加者層は加入団体を中心とした平均年齢の高い世代であった。今回、講師の吉松様は30代、フリートーク(ディスカッション)の登壇者も高校生・30代～40代前半の若者。また会場内にも、県内で活動をしている団体、地域おこし協力隊のブース等を設けた。</p> <p>参加者には商工会青年部を中心とした参加者もあり「ヨソモノ、ワカモノ」の交流ができた。</p> <p>佐賀県地域づくりネットワーク協議会としても、会員以外の一般の人にその存在を知っていただく機会となった。</p>	